砺波市の歴史年表

砺波のおもなできごと				日本のおもなできごと		
縄文時代	2万年前	旧石器時代	芹谷遺跡などから旧石器が出土			
	3000	原始時代	厳照寺遺跡・増山遺跡に住居跡、中尾遺跡から御物石器が出土			
			松原遺跡から土器や住居址などが出土			
			扇央部の久泉遺跡で打製石斧が大量に出土			
弥生時代	紀元前 紀元後		小矢部川左岸や扇状地扇端部の低地に集落ができる	三元	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る	倭の奴国の国王が後漢に使いを送る
	100					
	200		小矢部川左岸に若宮古墳など多くの古墳が築かれる			
	300		庄川右岸の庄金剛寺地内に古墳が築かれる			
	400					
	500					
古墳時代	600	7世紀	波利古臣（利波氏の祖先）が利波評（郡）を与えられる			
	700	大宝	山万呂が利波臣の姓を与えられる	六〇	天智九	庚午年籍成る
		7世紀末	千光寺の本尊は白鳳様式である			
古代	七〇三	大宝元		七〇一	大宝元	大宝律令
	七一〇	和銅三	利波郡川上里から平城宮へ鮒などが運ばれる	七一〇	和銅三	都を奈良（平城京）に移す
奈良時代	七一八	天平八	大伴家持が越中国守に赴任する（～七三まで）	七一八	天平一〇	墾田永年私財法
	七二九	天平元	利波臣志留志、東大寺に米三千碩を寄進し外従五位下を授けられる	七二九	天平勝宝	大仏建立の詔
	七三二	天平四	東大寺の僧、平栄が越中の墾田を占定する	七三一	天平勝宝	東大寺大仏完成
	七三五	天平七	東大寺墾田地の開田地図などを提出する（伊加流伎野と石粟村）			
	七三七	天平九	利波臣志留志が越中員外介に任ぜられ、墾田百町を東大寺に献上して従五位上を授けられる			
	七三七	天平九	越中国守や員外介志留志らが東大寺墾田地の開田状況を報告する（井山、石粟、杵名蛭）			
	七三七	神護景雲	越中国守や員外介志留志らが東大寺墾田地の開田状況を調べ墾田地図を作成し、翌年東大寺三綱所に報告する	七三七	神護景雲	初めて法王宮職が置かれ、道鏡政権が確立
	七五四	天平勝宝	志留志、伊賀の国守になる			
	七五九	宝亀一〇				
	七六四	天平宝字八	砺波郡では井山、伊加留岐、石粟、杵名蛭の各村がみられる			
	七七〇	宝亀一				
	七七二	宝亀三				
	七七四	宝亀五				
	七七五	宝亀六				
	七七六	宝亀七				
	七七七	宝亀八				
	七七八	宝亀九				
	七七九	宝亀一〇				
	七八四	延暦三		七八四	延暦三	都を京都（平安京）に移す
平安時代	八〇〇	延暦一九	扇央部の小杉遺跡などから須恵器が出土			
	八〇〇	延暦一九	梅檀野に須恵器窯が築造され、福山窯からは瓦塔などが出土			
	八〇〇	延暦一九	久泉遺跡に荘園に導水する大溝と溝管理施設の溝所ができる			
	八〇〇	延暦一九	延喜式が完成し、その神名式に砺波郡七座（高瀬神社、長岡神社、林神社、煎波神社、比売神社、雄神神社、浅井神社）があるとされる			
	九〇〇	延喜一				
	九〇〇	延喜一	和名抄が完成し、それによれば越中国砺波郡に十一郷（川上、八田、会、拝師、長岡、大岡、高槻、陽知、三貫、意悪、大野）がある			
	九〇〇	延喜一				
	九〇〇	延喜一				
	九〇〇	延喜一

砺波のおもなできごと				日本のおもなできごと		
一六〇五	慶長一〇	加賀藩によって利波郡が総検地される				
一六四三	寛永一九	田地割が初めて実施される		一六三七	寛永一四	島原・天草一揆（寛永一四～寛永一五）
一六四九	慶安二	一郎兵衛らが町立を願い出、杉木新町（出町）ができる				
一六五二	慶長四	藩が改作法に着手する				
一六五三	寛文三	杉木新町に作喰蔵が建てられる				
一六五六	明暦二	改作法が成就し、各村に村御印が渡される				
一六六三	寛文三	芹谷野が用水が引かれ、芹谷野が開かれる（翌年20の新村が生まれる）				
一六六六	寛文六	杉木新町に十村寄合所（八年より十村相談所）が置かれる。				
一六七〇	寛文一〇	各村の村御印印を改める。利波郡を礪波郡に書き改める。				
〃		庄川の松川除の築堤が始まる。				
一七一四	享保一	松川除堤防が完成し、野尻川、中村川、千保川の三河川がしめ切られる		一七一六	享保一	享保の改革（享保一～延享二）
一七一七	享和元	松川除堤防が切れ、砺波平野一帯が大水害を受ける				
一七一七	享和元	この年から西町のの曳山が始まる		一七一七	享和元	寛政の改革（天明七～寛政五）
一七二三	享保八	千保川跡の開拓のため舟戸口用水が引かれる				
一七二四	享保九	杉木新町に砺波郡の御郡所が設置される				
一七三三	天保四	大飢饉続く（天保四年・七年・八年）				
一七五一	宝暦一	杉木御蔵が設置される	慶応二	一八六七	慶応	王政復古の大号令が下る
一七五一	宝暦一	このころ魚津町の越後屋清次が金屋石黒村へ移り、ロクロ挽物木地屋を始める	慶応三			
一七五五	宝暦五	地震、コレラ流行、凶作、藩内各町に暴動起こる。井波町長崎騒動	安政六	一八五九	安政	安政の大獄
一七五六	宝暦六	ロシア船が富山湾に姿を現す				
				一八五三	嘉永六	ペリー、浦賀に来航する
				一八五四	安政一	日米和親条約
				一八五八	安政五	日米修好通商条約
				一八六〇	万延一	桜田門外の変
				一八六二	文久二	生麦事件
				一八六三	文久三	薩英戦争
				一八六四	元治一	第一次長州征伐
				一八六五	慶応一	第一次長州征伐
				一八六六	慶応二	薩長同盟
				一八六七	慶応三	大政奉還
				一八六八	明治一	戊辰戦争（明治一～明治二）
				一八六八	明治一	五箇条の御誓文
				一八六八	明治一	明治維新
				一八六八	明治一	江戸から東京へ
				一八六八	明治一	一世一元の制
				一八六八	明治一	東京奠都
				一八六八	明治一	版籍奉還
				一八六九	明治二	廃藩置県
				一八七〇	明治三	地租が一・五%に軽減される
				一八七一	明治四	学制の発布
				一八七一	明治四	徴兵令
				一八七一	明治四	地租改正
				一八七一	明治四	廃藩置県
				一八七二	明治五	太陽暦採用
				一八七二	明治五	富岡製糸場開業
				一八七二	明治五	学制公布
				一八七二	明治五	人身売買禁止令
				一八七三	明治六	徴兵令
				一八七三	明治六	地租改正
				一八七三	明治六	学制の発布
				一八七三	明治六	太陽暦採用
				一八七三	明治六	富岡製糸場
				一八七三	明治六	大日本帝国憲法の発布
				一八七四	明治七	日清戦争（明治二七～明治二八）
				一八七五	明治八	石油危機が起こる
				一八七五	明治八	樺太・千島交換条約
				一八七六	明治九	日朝修好条規
				一八七六	明治九	廃刀令
				一八七六	明治九	金禄公債証書発行条例
				一八七六	明治九	秩禄処分
				一八七七	明治一〇	西南戦争
				一八七八	明治一一	地租改正
				一八七八	明治一一	三新法
				一八七八	明治一一	郡区町村編制法
				一八七八	明治一一	大久保利通暗殺
				一八七九	明治一二	琉球処分
				一八七九	明治一二	教育令
				一八七九	明治一二	東京～横浜電話開通
				一八七九	明治一二	東京～横浜間鉄道開通
				一八七九	明治一二	東京～横浜間郵便開通
				一八七九	明治一二	東京～横浜間電信開通
				一八七九	明治一二	東京～横浜間電話